【令和５年度第２回企画展】≪帝都復興を牽引≫

新平通信Ｒ５．９

関東大震災③「継承」

虎の門事件の責任を取り、内閣はたった4カ月で総辞職しますが、後藤新平の思いは脈々と生き続け、現代の東京の小学校の副読本には8ページに亘って新平の功績が挙げられています。なぜ新平の想いが継承されたのでしょう。

【新渡戸稲造】

【1　情の人後藤新平】

新平は「情の人」でした。「その時が去れば、拭ふやうに、一切を忘れてしまふ。かういう大きな心を持ってゐるところに後藤さんたる所があった。」と、新渡戸稲造が振り返っています。

一緒に仕事をしているうちに、いつしか「新平のためならば」と思わせる情の人だったのです。新平が表舞台からいなくなっても、彼らが、新平の描いたビジョンの実現に向けて、邁進していったのです。

【2　人材招致（台湾民政長官）】

新平は、人材を集め、彼らの素質を十分に伸ばさせることを常としていました。

台湾時代は、地位と待遇を用意し、三顧の礼を尽くして招いた新渡戸稲造のように、自ら手紙を書き、自ら足を運び、人材を集めました。

そして、祝辰巳、中村是公、宮尾舜治、大島久満次、長尾半平、鹿子木小五郎、長谷川謹介など、雲の如く集まってきたのです。

【3　若手の育成（南満州鉄道初代総裁）】

新平は若手の育成に力を注ぎました。南満州鉄道総裁時代、「午前八時の人間でやるのだ」と言って、若い人材を集めて仕事をしました。これが「後藤の午前八時主義」として世上に喧伝されました。

まず副総裁として抜擢したのが台湾総督府の財務局長兼総務局長の中村是公（39歳）、営業方面担当として三井物産から、田中清次郎（34歳）と犬塚信太郎（32歳）、行政・土木については内務省の久保田政周（35歳）、清野長太郎（37歳）、鉄道方面担当として鉄道技師の国沢新兵衛（42歳）、法律関係担当として京都帝大から岡松参太郎（35歳）が理事として赴任しました。こうして新平の周囲に抜擢された満鉄の幹部の多くは、30代の年少気鋭の士ばかりとなったのです。

【4　帝都復興（育てた人材を結集し、計画を遂行）】

そして、帝都復興の陣頭指揮を執った後藤新平は、育てた人材を結集し、計画の遂行に努めたのです。台湾、満鉄で東京以上の近代都市を作ってきた人、鉄道院時代に実績を積み、内務省時代に都市研究を論じてきた人、東京市長時代に東京改造を設計した人。彼らが、後藤新平の描くビジョンの実現に向けて、力を結集させていったのです。

そして、東京市長には新平の腹心であった永田秀次郎と中村是公が相次いで就任し、車の両輪の如く、復興が進むこととなったのです。

【副総裁】【宮尾舜治】

【副総裁】【松木幹一郎】

【勅任技師】【笠原敏郎】

【勅任技師】【岸一太】

【官房長】【金井清】

【技監】【直木倫太郎】

【経理局長】【十河信二】

【計画局長】【池田宏】

【土木局長】【太田圓三】

【建築局長】【佐野利器】

【後藤の下で実績を積んだ人材が結集】

《台湾時代》中村是公・宮尾舜治・岸一太
《満州時代》中村是公（台湾）
《鉄道院時代》中村是公（台湾・満州）・松木幹一郎・十河信二・太田圓三・金井清
《内務省時代》永田秀次郎・池田宏　<都市研究会>佐野利器・直木倫太郎・笠原敏郎
《東京市長時代》永田秀次郎（内務省）・池田宏（内務省）・ビーアド

【第八代東京市長】【永田秀次郎】

【第九代東京市長】【中村是公】

第8代東京市長：永田秀次郎
第9代東京市長：中村是公

【帝都復興】